

「勝利を得る者に、わたしは明けの明星を与える。」

(黙示録 2 の 28)

わたしが行くときまで、今持っているものを固く守れ。…

勝利を得るものに、私は明けの明星を与える。

Only hold fast to what you have until I come.

To everyone who conquers, I will give him the morning star.

いつの世にもさまざまな誘惑がある。安楽や快樂への誘惑、そして地位や名声への誘惑、人間に頼り、自分を第一とする誘惑などいろいろある。

かつて主イエスが十字架にかけられる前夜、全身全霊をあげて夜通し祈った。それは十字架での処刑という筆舌に尽くしがたい苦しみを受けて、神の御計画に従おうとする気持ちと、人間としての弱さからそれをできることなら逃れたいという気持ちとの、祈りのなかの戦いであった。その時、12弟子たちは、イエスから、「目覚めていなさい」と繰り返し命じられてたにもかかわらず、その都度、眠ってしまっていたのが見出された。

このことは、いかに私たちが眠り込んでいる存在であるか、すなわち、いろいろな意味で弱く、神以外のものにひかれてしまう者であるかを象徴的に示している。

こうした弱さのただなかから、私たちがそれでもなお神に立ち返り、キリストを仰ぐときには、そうした誘惑に勝利していくことになる。私たちは日々、敗北していくか、それとも勝利していくかのいずれかなのである。

私たちに与えられているものは、信仰、罪の赦しの福音、また復活と聖なる霊である。罪を犯し、ときに神に背を向けることもあっても、なお神へと立ち返り、与えられているものに帰っていくこと、それが勝利である。

そうした耐えざる神への方向転換こそ、勝利の歩みであり、そのときには「明けの明星が与えられる」と記されている。明けの明星とは、キリストを象徴的に表す。(黙示録 22 の 16)

年末から現在も、朝の5時半ころから6時過ぎころまで、その明けの明星が美しい輝きを見せている。みんなが寝静まっているまだ夜明け前の闇のなかに、静かに、しかし力強く闇のなかに光のメッセージを送り続けているその輝きは、絶えず神に立ち返っていく魂に与えられるものを象徴しているのである。

この世の現実はいつの世にも暗く、また混沌としている。しかしそこにそうした闇に

勝利する光が存在すること、しかもその光は人間にはない永遠の愛や真実が込められていること、そしてそのような光が私たちの日常生活のなかにも与えられ、かつ、神のさだめたときには、再び、その光なるキリストがこの世に来てくださるといふこと、それらこそは、いつまでも続く希望である。



自然の中から

(富士山) 2011.1.3

この富士山は、今年1月2日（日）～4日（火）まで、静岡県伊豆における新年聖書集会の早朝に見たものです。山の全体が雪に覆われ、朝日を浴びてほんのりと赤みがかったその姿は、静まり返った早朝に、魂の中までしみ通るような美しさでした。

いままで、山中湖にいった時とか、新幹線の車窓からまた各地からいろいろな富士を見てきましたし、富士の写真などはたくさん目に入るし、有名すぎてとくに山としては私は関心を持ってなかったのですが、今回の富士はなにか生きた力をもって迫ってきた思いです。このような静かでかつ霊的な富士は始めてのことでした。

しかもその朝は、新年二日目、聖書の学び、礼拝のための集会のために伊豆まで来たときでしたから、いっそう神が私たちの集会を祝福をもって見つめてくださっている実感を与えられたのです。

神の御手のうちにある厳肅さ、清さ、美の一端がこうした山の姿に表されている。「天は神の栄光を表し、大空は神の御手を示す」（詩篇 19 の 2）とありますが、こうした山のすがたも確かに神の栄光とその御手を示すものだと言えます。

（文：T. YOSHIMURA、今回の写真は、私がカメラを持参していなかったために、新年集会に参加しておられた赤塚牧さんに依頼して撮影していただいたものです。）